

インド 生食用ブドウは新しい品種へ移行

FreshPlaza 2023年5月22日

インドの生産者は伝統的なトンプソン品種からクリムゾン品種へ移行

インドのブドウの季節は終わりに近づいている。インドの青果物出荷輸出業者であるチョプデ農産・輸出会社のCEOであるアミット・チョプデ氏によると、出荷シーズンは非常にうまく行っており、さらに延長された。

同氏は、「弊社のブドウの出荷シーズンは全体的に非常にうまくいった。収穫されたブドウの量と品質の両方に満足している。収穫は1月上旬から4月末までと長くなり、5月下旬まで果実を市場に供給する機会を得た。この出荷期間の延長により、需要を満たし、安定した供給を維持することができた。数量は増加したが、市場はシーズンを通して安定していた。これは、市場が大きな変動や問題を引き起こすことなく、増加した供給量を吸収したことを示している。今シーズン、ヨーロッパに100コンテナ以上を輸出し、初の3桁となったことをうれしく思う」と語った。(以下「」は同氏の発言)

チョプデ農産は、ブドウのほとんどをヨーロッパ諸国に輸出している。チョプデ氏は、紛争が続いているにもかかわらず、今年はロシアへの輸出がより円滑になったと述べている。「欧州市場は、インドのブドウ輸出にとって非常に重要である。弊社チョプデ農産は今シーズン、2種類のブドウのミックスパックに対する英国とヨーロッパ諸国のスーパーマーケットからの強い需要を目の当たりにしている。また、ロシアや東南アジア諸国からの需要も増加している。ウクライナとロシアの紛争が続いているため、ロシアとの取引には懐疑的だったが、今シーズンは昨年よりも円滑に運営されている。」

可能性のある新しい市場に関し、チョプデ氏にとって突出した国が一つある。「カナダ市場がインド産ブドウの潜在的な輸出機会として浮上しており、弊社はこの市場に参入する可能性を積極的に模索している。全体として見ると、ヨーロッパは引き続き弊社のブドウ輸出にとって最も重要な市場となっているが、カナダ向けなど成長のための新しい道を模索し、出荷先を拡大している。インドのブドウ輸出量は、前のシーズンに比べて大幅に増加している。今年、インドは前年より約6%多くの量を輸出した。有利な為替レートと運賃の低下が、こうした成長を推進する上で重要な役割を果たした。」

同氏は、インドは大量の降雨と降雪に対処しなければならなかったが、天候はブドウの品質にあまり影響を与えなかったと言う。「今年は季節外れの雨が頻繁に降り、弊社のブドウの出荷シーズンにいくらかの影響を及ぼした。顕著な影響の一つは一定の期間に梱包作業が遅れたことだ。しかし、これらの雨にもかかわらず、ブドウの品質は大きな影響を受けなかったことに留意することが重要だ。チョプデ農産の利点の一つは、広い地域に広がる生産者の広範なネットワークである。これによって、複数の地域からブドウを調達することができ、一定の安定した供給を実現している。季節外れの雨により生じた課題にもかかわらず、しっかりした生産体制のおかげで供給の約束を果たすことができた。季節外れの雨は一時的な混乱を引き起こしたが、弊社は安定した供給を維持することができ、これらの課題を乗り越えて取引先への義務を果たすことができた。」

インドの生産者は今日、トンプソン品種よりも多くのクリムゾン品種を栽培していると同氏は言う。「さまざまなブドウ品種に対する取組みに加えて、インドの生産者の間では伝統的なトンプソン品種からクリムゾン品種への顕著な変化がある。この変化は、特にヨーロッパ市場での色の濃い品種に対する需要の増加によって推進されている。クリムゾン品種は色合いが魅力的であり、生産者と消費者の両方で人気を得ている。より多くの生産者がクリムゾンの栽培に移行するので、インドはヨーロッパ市場の需要を満たすために、かなりの量の色の濃い品種を供給できると期待される。」

「この色の濃いブドウ品種への移行は、業界の適応性と新しい市場機会を模索する意欲を反映している。また、インドが今後数年間で色の濃いブドウの信頼できる輸出国としての地位を確立する可能性も浮き彫りにしている。」

執筆者: ニック・ピーターズ